



「ワン」ダフル川上犬。

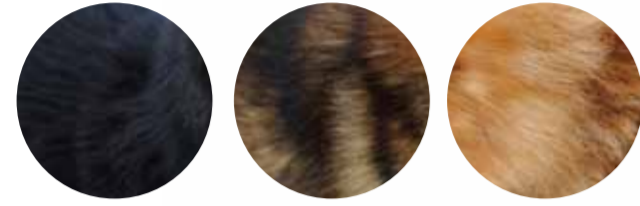
What's 川上犬?

村内全域で標高が1000mを超え、厳冬期の最低気温は-20℃を下回るという川上村で長年狩りのパートナーを務めてきた川上犬。その性格や外貌には、村の気候風土に根付いた特徴があり、土地、人、犬の密接な関係を知ることができます。



耳

前方に向かいピンと立った耳は、優れた聴力を持ち獲物の追跡に役立ちました。



被毛

毛色は茶のほか黒や白など様々。厳しい寒さに耐える為、一般的な柴犬よりも長い毛足をしています。

目

野性味と可愛らしさを併せ持つ瞳。時にオオカミのような表情を見せることもあります。



声

外見に似合わず、太く、良く通る大きな声を吠えます。

尾

太く力強い、差尾・巻尾をしています。



肉球

断崖のカモシカを追って岩場を駆け上がる必要もあった為、分厚く丈夫な肉球をしています。



子犬ご希望の方は

川上犬は年間20頭程しか繁殖しない為、分譲は常に2~3年待ちの状態が続いています。また通常のペットとは異なる様々な制約があり、保存会への相談無しに去勢・避妊手術、交配・繁殖、第三者への譲渡や販売等は一切できません。飼育は種の保存を第一目的とし、保存活動をサポートするものであるという趣旨をご理解の上、信州川上犬保存会(南佐久南部森林組合内) (0267-97-2518)迄ご連絡下さい。



「村の犬」を守る為、交配や繁殖は厳格な管理のもと、村内で行われます。

一般外貌

信州柴の一種で、立耳、巻尾という日本犬の特徴を備えています。その端々に一般の柴犬とは異なる野性味を感じることができます。標準体高オス38~45cm、メス35~42cm

性格

非常に活発で行動的、勇敢な性格と高い帰家性を持っており、飼い主に従順です。



土地と人が守った「生きた文化財」

村名が由来の日本でも唯一の犬種

三角の耳に、くるっと巻いた尻尾、愛くるしい瞳に時折宿す野生の眼光。長野県川上村が原産の川上犬は、地域と深い絆で結ばれた県の天然記念物です。

「ヤマインズ(ニホンオオカミ)が猟師によって飼いつづけられたとも伝えられるこの犬種。古くから川上村に棲む地犬がルーツとされ、勇猛な性格から江戸時代には既に猟犬として村人と生活を共にしていたと言います。明治になると洋犬が流入し、日本中で和犬の雑種化が進みますが、高い山に開かれ隣村から隔てられた川上村の犬達は、こうした影響を受ける事なくその血統を維持してきました。

大正時代、村を訪れた大学教授が日本狼の頭骨に良く似た狼犬を見た。それ以来「村の犬」の存在が注目され、純粋な日本犬として天然記念物の指定を受けました。しかし良犬の噂が世間に広まると犬達は高値で取引されるようになり、多くが村外へと流出していききました。



寒冷地にある川上村。役場の所在地は標高1,185mと日本の高山に位置しています。

この状況を憂いた村人達により保存活動が始まりますが、鉄道「小海線」の開通や狩猟への規制強化等、生活様式の変化に伴いその数は減少の一途をたどります。太平洋戦争が始まると犬の飼育自体も厳しい逆風にさらされ、村内の犬は一時3頭にまで激減してしまいました。

戦後になり、再開された保存活動。日々の暮らしにも困窮していた当時、彼らを突き動かしたのは「土地と共に生きてきたこの犬の血統を残す事、この地域の住む者の使命である」との強い信念でした。村外に移出された優良種を買い戻す為、時には飼っていた牛を売却し購入資金に充てた事もあったそうです。個体数の減少

が天然記念物への指定を解除された時期もありましたが、「戻し交配」を続けることで種の固定化を実現し、川上村の犬を守るという人々の想いは実を結びました。

「現在では全国に400頭程がおり、絶滅の恐れは無くなりまじた。希望者へは子犬の譲渡もしていますが、種の保存が目的のため、飼育環境等を審査させて頂くこともあります。」

と川上犬保存会の吉澤一平さんは言います。川上村の土地とそこに住む人々の情熱で受難の時を乗り越えた「村の犬」は、生きた文化財として今では地域の誇りとなっています。



右/「現在では森林組合と教育委員会が合同で、川上犬の交配や育成、血統管理に務めています。」と吉澤さん。下/保存会が指定した川上犬のうち、村内で飼育されているもののみが、天然記念物の対象となっています。

名犬の里 川上村

長野県の最東端に位置し、生産量日本一のレタスを始め多くの高原野菜で知られる川上村。日本最長河川「信濃川」の源流をかかえ、豊かな自然に囲まれた動植物の宝庫です。村原産のカラマツは品質も高く、古くは江戸城の建築などにも用いられてきました。今ではトレッキングスポットとしての人気が高まっており、村を通る高原鉄道小海線は多くのファンに親しまれています。

現在、村内にいる川上犬は数十頭程。小学校でも児童達による飼育が行われるなど、地域が一丸となり保存活動を支えています。役場に隣接する「川上村森の交流館」では、常時数頭の川上犬を飼育、公開しています。



生産量日本一のレタスを始め、多くの高原野菜で知られる川上村。シーズンを迎える夏場は、あたり一面が緑に覆われます。

川上犬ふれあいマップ



川上村森の交流館
 国 長野県南佐久郡川上村大深山536
 ☎ 0267-97-2518

Miyama Information

放射性物質汚染対処特措法 施行のお知らせ

「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」(以下、放射性物質汚染対処特措法という)が、1月1日に施行されました。

概要

- 現行の「廃掃法」に基づき、廃棄物の処理体制・施設等を活用し、原子力発電所の事故由来の放射性物質により汚染された廃棄物の処理を速やかに進めるために公布されました。
- 調査義務の対象地域(下表参照)の下水道施設や廃棄物焼却施設等では、原則月1回以上の調査と報告が義務付けられています。
- 廃棄物が放射性セシウム(Cs134及びCs137)の濃度基準8,000Bq/kgを超過した場合は「指定廃棄物」に指定されます。
- 「特定廃棄物」(「対象地域内廃棄物」及び「指定廃棄物」)については、国がその処理を行います。

詳細は、環境省ホームページをご覧ください。http://www.env.go.jp/jishin/rmp.html

◎調査義務の対象となる地域

出展：環境省HP
「法第16条の調査義務の対象となる地域」

調査義務の対象となる区域	岩手県	宮城県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県
①水道施設		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②公共下水道 脱下水泥を排出する施設 及び 流域下水道 ばいじん及び燃え殻を排出する施設				○	○	○	○	○	○	○	○	○
③工業用水道施設		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④特定一般廃棄物処理施設・ 特定産業廃棄物処理施設である 焼却施設※2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤集落排水施設				○								

※1：島しょ部を除く
※2：これらの地域に所在する施設のほか、特定一般廃棄物・特定産業廃棄物を処理する施設を含む。

まずはお問い合わせください。

放射能濃度測定のご相談は、弊社営業担当までお問合せください。



Check it Out!!

水質汚濁防止法改正のお知らせ

地下水汚染の未然防止規定を盛り込んだ水質汚濁防止法を改正する法律が6月1日に施行されます。

■主な改正内容

- ①届出義務のある対象施設が拡大
これまでの有害物質使用特定施設に加え、有害物質貯蔵指定施設についても届出が必要になります。
- ②対象施設の構造基準を創設
届出が必要な施設について、3年の猶予期間を経て構造等に関する基準の遵守が義務付けられます。
- ③対象施設の定期点検を義務付け
対象施設の設置者は、施設の構造や使用方法等について、定期点検、点検記録の保管が義務付けられます。

環境検査計測事業

放射能分析

お問い合わせ
ください

①放射性核種の定量分析

厚生労働省の「緊急時における食品の放射能測定マニュアル」に基づき、土壌、汚泥、食品、水等に含まれる放射性セシウム、放射性ヨウ素を測定します。

◎検出下限値：10~20Bq/kg ◎分析期間：1週間~



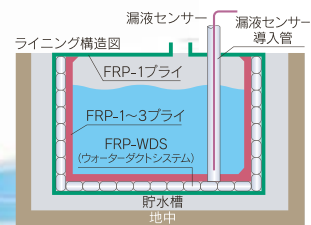
②空間放射線量率測定

校正証明書付きサーベイメーターを用いて、製品や校庭等、対象物周辺の空間放射線量を測定します。

◎測定範囲：0.00~30.0μSv/h ◎分析期間：三日以内に報告書提出

環境装置事業

WDS ウォーターダクトシステム



●WDSイメージ図

貯水槽への特殊なライニングの施行と内部センサーの設置で、貯水液の槽外漏出を未然に防ぎます。

- ◎高い耐久性 ◎大規模工事不要
- ◎低コスト ◎貯水容量の大幅減少無し

見えない不安に見える安心へ。
既存貯水槽への施行で実現可能な、
低コストな安全対策システムです。

総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社/〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号 TEL.026-285-4166(代) FAX.026-283-0011

- リサイクルセンター/長野・松本・東京・燕・秋田・名古屋・大阪 ■工場/長野・中野・上越・分水・燕・大町
- 技術開発センター ■EM開発センター ■装置機材センター ■保全機材センター
- 名古屋プラントサービスセンター ■新潟プラントサービスセンター ■関西プラントサービスセンター
- 営業所/盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪・甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪

詳しくは当社ホームページへ <http://www.miyama.net/>

PIGEON POST vol.08

発行日：平成24年3月1日 発行人：南 克明 編集：ミヤマ株式会社 広報室 デザイン：トドロキデザイン